R7(2025)年度　研究・研修

(1) 授業研究内容

主体的な学びを育む学校づくり ～自分の考えを伝え合い、つながり合う授業の工夫～

(2) 主題について

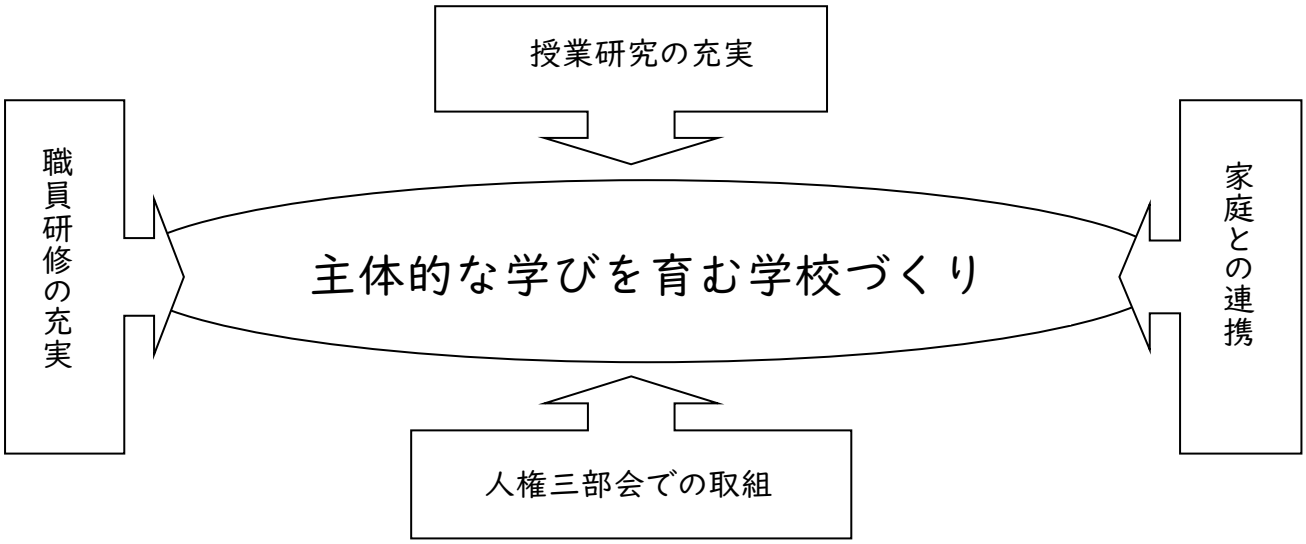
本校では昨年度まで、『一人一人がいきいきと輝き、学び合い、つながり合う子どもの育成』を研究主題とし、その中心を「話すこと・聞くことの言語活動の工夫」におき、国語科の研究を進めてきた。その理由は、生きてはたらく力としてのコミュニケーション能力を育てるためである。

4年ほど前に遡るが、新型コロナウイルスの感染拡大は社会の構造自体をも変化させ、学校現場にも深刻な影響を及ぼした。本校でも様々な制限や規制により、学習や遊びの中で子どもたち同士が関わる機会は極端に減ってしまった。その影響は大きく、コロナ渦が明けて見えてきた課題は、子どもたち同士がつながるといった部分での経験不足による不器用さであった。自分の考えを相手に伝えることや、相手の話を最後まで聞くことに困難さを感じている児童が多くいることから、「話す力・聞く力」を伸ばすための取組をスタートさせた。そして、ペア学習やグループ学習、話し合い活動等を効果的に取り入れながら、「児童が学びの中でつながり合う授業づくり」について研究を重ねてきた。

2年間の研究を経て、児童の「対話する力」は徐々にではあるが確実に伸びてきている。その理由は、「友達と話し合う学習は楽しい」と感じ、「話すこと・聞くこと」に対して意欲的に取り組もうとする児童が圧倒的に増えたからである。また、学級集団づくりも含め、子どもたちのつながりを大切にした授業づくりを行うことで、互いを認め合おうとするあたたかい人間関係が育ってきていることも、取組の成果の現れではないかと考える。

そこで今年度は、研究主題を『主体的な学びを育む学校づくり』と設定し、国語科を中心にした研究で培った力を他教科、特に人権教育に生かして取り組んでいく。学級の人間関係は、すべての学習活動の基盤である。互いの考えの良さに学ぼうとする姿勢と互いを認め合う人間関係が、児童の「主体的な学び」を実現していくものと考える。一人一人の個性をしっかり受け止め、みんなが大切にされているという実感がもてるような学級づくり・学校づくりを目指していきたい。そして、今年度のサブテーマを、「自分の考えを伝え合い、つながり合う授業の工夫」と設定した。今年度も引き続き、「話すこと・聞くこと」の様々な取組を大切にしながら、さらに研究を深めていきたい。

（3）研究の実際



(4)研究方法

授業研究の充実

<研究教科> 人権教育（道徳科や学級活動、総合的な学習の時間など）

<研究授業>

○ 各学年部会からブロック別研修会、校内全体研究授業において授業発表を行う。校内全体研究授業については、できる限り講師先生を招き研究協議を行う。

<研究協議>

○ 全体での協議やグループでの協議など、様々な形での協議を行う。

○ 討議の柱を設定して協議を行う。

<日程>

6月18日（水）　10月22日（水）　11月19日（水）

< 指導方法の工夫>

○ 自ら課題の解決を目指す活動が行えるように工夫すること

○ 発達の段階を考慮した児童への指導・支援の仕方を工夫すること

○ 児童が互いの関わり合いを深めつつ学習が進むように配慮すること

○ 確かな言語能力を身につけ、学習への興味や関心を高めるように意図すること

○ 学習カードやタブレット等を用いて、効果的に研究主題に迫れるように工夫すること

○ 学校生活や家庭との連携

人権部、生徒指導部、特別支援教育部との連携

心をつなぐ集会の取組を継続し、児童の心を豊かにするような場を積極的に設けていく。また、生徒指導部を中心とした職員全員による学校のきまりの指導など、道徳的実践力を高める取組を継続していく。ねむの木学級は授業を公開し、職員の児童理解を深める。

家庭との連携

○ 学校での児童の様子や頑張っていることを保護者に伝え、家庭と連携をして児童を励まし伸ばしていく。

○ 平成24年度に開始した「家庭学習の手引き」や「おうちでできたかなシート」の取組を深化・充実させ、家庭教育力の強化を図る。「家庭学習の手引き」の内容については、各学年で再度見直しをして配布する。「おうちでできたかなシート」は、家庭での生活を振り返り、保護者にも確認してもらい、個人懇談で活用するなど今後の指導に活かしていく。

○基礎学力の定着にむけた取組

① 学びタイム

木曜日と金曜日の業前を学びタイムに設定する。内容については児童の実態に応じて各学年で話し合い、タブレット学習やプリント学習等を用いる。継続した活動が可能なように工夫して行う。全職員で児童の実態を把握し、児童の基礎学力向上に努めていく。

② 家庭学習の充実

○ 宿題については、各学年で話し合い、学級で差が出ないようにする。
（漢字学習・算数ドリル・音読が基本、タブレット学習や日記も必要に応じて加える。）

○ 中学年と高学年においては、自主学習にも力を入れさせる工夫をする。

○ 学年だよりや「家庭学習の手引き」、「おうちでできたかなシート」を通して、家庭への啓発を図る。学年で目標を決め、児童に働きかける。また、家庭学習の充実のために、各学年で決めた目標にそって家庭と連携し、充実を図る。